



HARUMI FLAG 発、サステナビリティ コミュニティ

FOR PARTNERS

サステナビリティの推進を
目的として、
街に関わっていただける
パートナー企業を
募集しています。

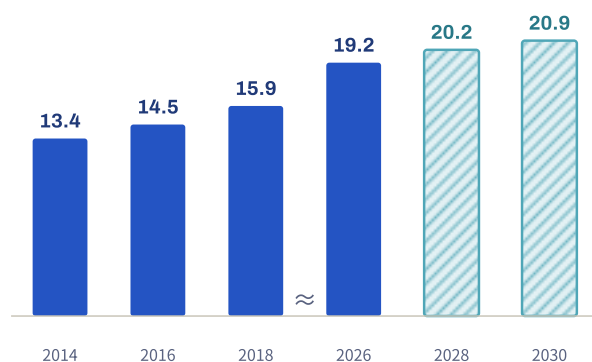
NEW COMMONS 企業パートナーのご案内

運営・事務局 一般社団法人NEWHOERO
2026年10月



中央区の人口は増え続け、2030年には約20.9万人になる見込みです。

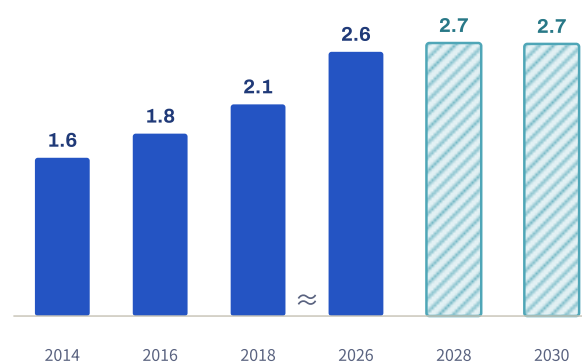
総人口（万人・各年4月1日）



12年で約1.4倍（2014年 13.4万人 → 2026年 19.2万人）。

区は、2027年度内に20万人を超えると見込んでいます。

15歳未満の子ども（万人・各年4月1日）



12年で約1.7倍（2014年 1.6万人 → 2026年 2.6万人）。

2030年にかけても、2.7万人前後で推移する見込みです。

月島地域（佃・月島・勝どき・豊海町・晴海）

9.2 万人 2026年



10.3 万人 2030年（推計）

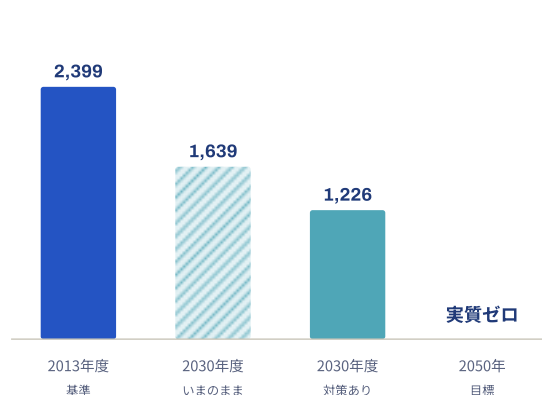
区の人口のおよそ半分（47.8% → 49.3%）が、HARUMI FLAG のある月島地域に暮らす見込みです。

■ 実績（住民基本台帳） ■ 推計 ※2019～2025年は省略

出典：中央区「住民基本台帳」（各年4月1日。2014～2018年は中央区資料による）、中央区「中央区将来人口の見通しについて（令和8(2026)年4月推計）」

中央区は、2030年度に CO2 を2013年度の半分に減らすことを目標にしています。

区内の CO2 排出量 (千t-CO2)



2030年度に2013年度比 **50%削減**、
2050年までに **実質ゼロ**。

2021年3月の
「ゼロカーボンシティ中央区宣言」を
踏まえた目標です。

どこから出ているか (現状値・千t-CO2)



事業所 約7割を占める。
2030年度に2013年度比
65%削減

家庭 2030年度に2013年度比
30%削減

再生可能エネルギー 2030年度に、区内の
電力消費量の **50%以上**

計画の6つの基本目標

1. 脱炭素社会
2. 気候変動適応社会
3. 循環型社会
4. 自然共生社会
5. 安全安心な社会
6. みんなで環境活動に取り組むまちづくり
「学びと行動の輪」

区民・事業者・団体・区が連携・協働して
取り組むことを掲げ、参加の目標も
定めています。

家庭の参加 中央エコアクト 818世帯 →
10,000世帯

事業所の参加 中央エコアクト 128件 →
3,000件

(いずれも2030年度の目標)

出典：中央区「中央区環境行動計画2023（概要版）」（計画期間 2023～2032年度）。現状値は計画の記載（令和3年度末時点の実績）による

NEW COMMONS は、住人が暮らしのなかで 小さな実践を重ねるチームです。

まちの場所も、ものも、人の知恵も。
使って、分け合い、手をかけるほどに、
暮らしの豊かさが育っていく。

はじまり	2027年2月スタートに向けて準備中
活動の対象	HARUMI FLAG から、東京都中央区全域へ
関わり方	読む 参加する 手伝う 企画する
発起人	高島太士（HARUMI FLAG 住人）
運営・事務局	一般社団法人NEWHERO



企業のみなさまと一緒にできることは、アイデア次第で広がります。

たとえば



直して、使いつづける。

修理の出張教室。道具や部材の提供、直し方の知恵の共有。

住宅・家具・工具・DIY



おさがりを、次の人へ。

子ども服の譲り合いと回収、繕いやリメイクの教室。

アパレル・繊維



分け合って、つながる。

まちの本棚づくり。絵本やおもちゃを次の家庭へつなぐ仕組み。

出版・玩具・教育



道具を、みんなで使う。

たまにしか使わない道具の貸し借り。拠点づくりと仕組みの試行。

シェアサービス・不動産・建物管理



余らせずに、おいしく。

地元の食材を使い切る料理会。作り置きを分け合う工夫。

食品・流通・飲食



土に返して、また育てる。

野菜くずを堆肥に。育った土で、親子で野菜を育てる。

環境・設備・造園



小さな生きものに、気づく。

花壇に来るチョウやハチの観察会。まちの生きものの調べ。

建設・不動産・緑化



水辺を、きれいに。

水辺の清掃と、拾ったごみの種類調べ。結果をまちで共有。

飲料・容器・物流



自転車を、長く乗る。

点検や整備の教室。安全な乗り方を親子で学ぶ。

自転車・移動サービス・保険



おひさまの力で、遊ぶ。

小さなパネルで発電を体験。家でできる省エネの工夫。

電力・住宅設備・家電

※ここに挙げたのは、ほんの一例です。業種も例として挙げています。テーマも進め方も、住人メンバーと企業のみなさまのアイデア次第で、いくらでも広がられます。

連携のかたちは4つ。それぞれ、企業のみなさまにこんな機会が生まれます。

1

住民参加の ワークショップ

テーマに沿って、住人と一緒に体験や話し合いの場をつくります。社員のみなさまの参加も歓迎します。

企業のみなさまには

**社員が参加できる、身近な
地域活動**

2

商品・サービスの 実証・モニター

子育て世代の住人に実際に使ってもらい、暮らしの中での声を集めます。

企業のみなさまには

**子育て世代との共創（声を
聞き、一緒に試す）**

3

地域の学校との 授業連携

調整と当日の運営は事務局が担い、先生の負担を増やしません。

企業のみなさまには

**子どもたちの学びに関わり、
学校とつながる機会**

4

年次レポートと 発信

活動を記録し、レポートにまとめます。

企業のみなさまには

**サステナビリティの
取り組みとして発信できる**

※4つは組み合わせることもできます。内容はご相談のうえ決めます。

まちのために、 企業のみなさまの知見を お貸しくください。

NEW COMMONS は、これから始まるチームです。

住人・学校・企業が気持ちよく関われるよう、連携のルールも、
みなさまと一緒につくっていきたいと考えています。

2026年11月からご相談を受け付け、 2027年2月に活動を始めます。

STEP 01

ご相談

目的や、関心のあるテーマをお聞きます。

STEP 02

企画のすり合わせ

住人メンバーや学校の声を聞きながら、内容を考えます。

STEP 03

ご依頼・ご契約

一般社団法人NEWHOと、お仕事として契約します。

STEP 04

実施

調整と当日の運営は、事務局が担います。

STEP 05

レポート

活動の記録と振り返りをお届けします。

これからの予定

2026年11月～

構想のご説明・ご相談の受け付け

2026年12月～2027年1月

住人のお茶会・メンバーの募集

2027年2月

NEW COMMONS スタート

2027年3月

最初の活動・第1回のレポート

その後

四半期ごとにレポートをお届け

費用 内容・回数・規模に合わせて、お見積もりします。

※予定は準備の状況により変わることがあります。

まずは、お話を聞かせてください。

テーマがまだ決まっていなくても大丈夫です。どんな関わり方ができそうか、一緒に考えるところから始めましょう。

support@newhero.or.jp

一般社団法人NEWHO（NEW COMMONS 運営・事務局）

newhero.or.jp/newcommons/